# 第2次 舘腰地域まちづくり計画



## 『 生きがいとふれあいに満ちた 心豊かな暮らしのあるまち 舘腰 』

令和4年4月 **舘腰地域まちづくり協議会** 

#### 1 地域の特色、課題

舘腰地域は朝日地区の南部に位置し、三面川左岸の平坦地に小川、古渡路、あけぼの、大場沢、十川、下新保の6集落、長津川沿いに熊登、笹平、瑞雲、釜杭の4集落、小揚川沿いに小揚集落があり、山間部から平坦地まで11集落が点在しています。熊登遺跡、中平遺跡など縄文時代の遺跡からもわかるとおり、この地域には古くから脈々と人々が暮らしてきました。各集落がムラとして生活してきたものが、明治22年の町村制施行により、舘腰村、長津村となり、明治34年に両村が合併し、舘腰村ができました。昭和29年の合併により朝日村、平成20年の合併で現在の村上市となっています。

舘腰地域は三面川、支流長津川がつくる肥沃な大地で稲作を中心に農業が行われてきたが時代とともに年々農業者数は減少しています。国勢調査による人口の推移は朝日地区全体では昭和30年に19,184人だったものが平成22年には10,623人、令和2年には8,604人となり約55%減少し、舘腰地域においても昭和30年に3,551人いた人口が令和2年には2,026人まで減少しています。

道路交通網は年々整備され、地域内を国道7号、県道高根村上線、鶴岡村上線が貫通し交通の要所となっています。平成23年には日本海東北自動車道が朝日地区まで開通し、当地域には朝日三面インターチェンジが完成しました。

各集落では盆踊りや公民館活動など伝統的な行事が継承されていますが、雇用の場の減少、少 子高齢化、人口の減少などに伴う担い手の減少により、地域活動の維持が困難となり、地域の将 来に不安を抱える住民も少なくありません。

こうしたことから、今後のまちづくりの原動力となるコミュニティ活動を活性化させることを 目標に、住民・集落同士の交流を進めながら、地域の自然環境や伝統文化を再認識し、住民同士 の相互扶助意識の醸成を促すことで、住民一人一人が生きがいを持ち、支え合う連帯感のある地 域社会を形成する環境づくりが必要となってきています。

#### **2 地域のまちづくりの理念、将来像**(目標年度:令和8年度)

住民と行政が一体となり、地域の活力を高めるために、まちづくりの理念と将来像を決定しました。

≪ まちづくりの理念 ≫ 『生きがいとふれあいに満ちた

心豊かな暮らしのあるまち 舘腰』



#### ≪ 将来像 ≫

- 一. 住民が集える拠点を整備し、住民・集落同士の連携・交流が盛んに行われている
- 一. 地域が協力できる体制を作り、子供から高齢者まで生きがいを持って生活している
- 一. 地域の歴史・伝統文化・行事を次世代に伝える仕組みができている

### 3 具体的な取組みの方向性、実施事業計画等(計画年度:令和4年度~令和8年度)

基 本 方 針	具	具体的な取組みの方向性 事業実施年度
至	事	事業実施計画 4 5 6 7 8
	1	地域住民が集い、住民同士を繋ぐ拠 点づくりに取り組む
住民が集える拠点を整備し、住民・集落同士の 連携・交流が盛んに行われている	2	地域の特産物を発掘もしくは活用し、地域外との積極的な交流を図る
	3	各集落や他のまちづくり組織、小学 校等との連携を推進する
地域環境の保全を図るとともに、地域が協力できる 体制を作り、子どもから高齢者まで生きがいを持っ て生活している	1	地域課題の解決に取り組むとともに取り組んでいる団体を支援する
	1	地域の歴史や風土、行事などの文化 継承を推進する
地域の歴史・伝統文化・行事を次世代に伝える 仕組みができている	2	広報紙や SNS 等を活用し、地域情報 を発信する
	3	地域のキーマンとなる人材の確保および育成を図る